

会員の掲示板

◇ルールとマナー

- この掲示板は、会則に基づき、会員相互の交流を深めたり、広げたりすることを目的としています。そこで、会員一人一人がマナーを守り、誰にとっても役立つ、有益な情報がたくさん投稿されることを願います。そのために最低限度のルールとして、内容や言葉遣いが
 - 対象を誹謗中傷したり批判したりするものとならないようにする。
(特に相手の心を傷付けるもの)
 - 人権に反したものとならないようにする。
 - 反社会的なものとならないようにする。以上の約束をお守りいただき、気持ちの良い掲示板にしていきたいと考えます。

◇投稿のやり方【改定】

- 投稿する会員は、御自身の原稿をPDFデータにして、**ワードデータとともに**、◆投稿用メールに添付してお送りください。
- 原稿の中には、必ず、会員番号と氏名を入れてください。また、メールの表書きには、いつまでの掲載を希望するのか、希望掲載期間を明記してください。期間の明記が無いものは、基本的に期間を一ヶ月とします。

◇注意事項

- 投稿されたものは、会長・副会長で確認し、全員の了解が得られれば、庶務担当副会長が「会員の掲示板」に載せます。載せる前には投稿された会員あてに、その旨連絡いたします。
- 万一、載せられないものについては、その理由を会員に返信し、載せられるよう修正したものを再度投稿していただけるよう依頼いたします。

～御理解と御協力の程、よろしく願いいたします～

参加者からの一言、二言…感想集

第二回研修会は19名の会員の皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。

インターメディアテクを研修場所を選ぶにあたって、知り合いからいいところがあると教えてもらい、事前に実踏に行きました。

実際に行ってみたところ、ここなら喜んでもらえる、自信をもちました。今まで東京駅の近くにこんな素敵な博物館があるとは知りませんでした。

東大がもっている貴重な骨格標本、動植物標本が展示されていて時間を忘れて見入ってしまいました。

中でもヨナグニサンの標本は印象に残りました。

私が現在勤めている水元公園水辺の生き物館が管理しているオニバスの葉の標本があるのにも驚きました。

第三回は11月28日に筑波実験植物園に行きます。

ぜひご参加ください。

伊澤 卓也



KITTEの中に素晴らしい博物館があったのを知りませんでした。しかも無料で・・・ミイラから始まり、キリンの骨格標本等々興味あるものばかりでした。

ゆっくりと時間をかけてまた行ってみたいと思いました。

無料で便利な場所にあり、いいところを紹介してくださった研修部の先生方に感謝です。ありがとうございました。

江平 秀子

さすが東大の所蔵と、大変楽しく見学させていただきました。

親睦会でも一つのことを追究し続けるのがよいと言うお話がありましたが、まさに、追究した結果の所蔵と、集めた当時のわくわくが伝わってくる感じがしました。

また、お陰さまで今の私たちの生活があるとも思いました。

キリンの首はなぜ長い？ 骨の数は人間と同じだけれど、一つ一つの骨が長いからです。

このような機会をいただき、元気もいただきました。ありがとうございました。

土田恵美子



第二回研修会 R7. 10. 4 (土)「インターメディアテク」から学ぶ

参加者からの一言、二言…感想集

研修会や遠足等で何度も訪れている水元公園ですが、今回の不動池でのカワセミ観察は初体験で、とても素晴らしい会員研修会にさせていただきました。伊澤部長をはじめとする研修部と水元かわせみ倶楽部の皆さんに心から感謝です。

正に青い宝石と言われるカワセミを本当に手が届くくらいの間近で長時間じっくり観察でき、不動池と他の地で育っているカワセミの違い（単独で行動することの多いカワセミが不動池ではペアで活動、巣立ちまでの2週間家族で生活、年に複数回の繁殖、等）や、カワセミが子育てしやすい環境に不動池を維持・改善していること（外敵から身を守る茂みの維持、餌場を見渡せる枯れ枝等の配置、餌となる小魚等の確保、等）等多くの学びを得ることができました。

数年しか生きられないと教えていただいたカワセミですが、この不動池・水元公園でずっと安全に過ごすこと、そして、私たちの心を癒してくれることを祈るばかりです。

中村 守



カワセミについて知っていたことは、金属光沢の緑色が綺麗な小鳥で、見れたらラッキーというくらいでした。

今回の研修で、カワセミの生態を知ることができ、点であった知識が面に広がりました。

餌付けが巣の中で行われるだけでなく、巣から出た幼鳥時に親鳥から餌付けされることや、雄鳥の寿命が2年くらい、などです。

福田 晴男

美しいものの、その裏にも目を向けよう！

動物園ではなく、自然の中でのカワセミの観察会でした。その為、【水面が見える止まり木をじっと見ていて、運が良ければカワセミが飛んできて一瞬でも見ることができるのであろう】とっていました。

ところが、観察会場である水元公園不動池には、三脚を立てた望遠カメラがズラリと林立している。これは！と思った途端、「あの止まり木に（カワセミが）居ますよ。」と教えて戴き、背が青く輝き腹が黒みがかかったオレンジ色のカワセミ幼鳥をしっかりと見る事ができた。しかも、池の奥の止まり木にもカワセミの幼鳥が居たのだ。

これには、やはり秘密があった。十数年にも及ぶカワセミ倶楽部の方々の科学的な取り組み、池の周りの下草刈り・浮島作りをはじめ、池底の浄化などカワセミの習性に応じた実労を伴う環境の改善に尽力していたのだ。

いつかどこかで美しく輝くものを見る事があったら、その裏にある何かの苦勞に目を向けるきっかけとなる観察会であった。

大門 康雄



研修会ではありがとうございました。

カワセミをこんなに近くで観察ができると思いませんでした。現地で写真撮影をしていた方々も親切にカワセミがいる場所や親鳥、幼鳥の違いを教えてくださいました。

豊富な資料での解説もとてもよかったです。ありがとうございました。

叶 雅之



今日は天候に恵まれて有意義な研修会でした。

鮮やかなカワセミブルーをじっくり観察できました。あんなに沢山のカワセミに、会えるなんて素敵な1日となりました。

観察と説明が重複して時間オーバーとなりましたことが残念でした。生き物館の資料もゆっくり見たかったです。

吉井 恵子



久しぶりに研修会に参加して、皆様のお顔を拝し嬉しかったです。

さて水元公園不動池のカワセミ、じっくり観ることができありがたかったです。そして親鳥と幼鳥と一緒に過ごす短期間に観察できたことも感動しました。

この日に研修会を設定してくださったのも水元かわせみ倶楽部の佐藤会長様のこれまでの研究と経験からと伺い、感謝します。

吉岡 一彦



カワセミが目の前の枝にとまりました。羽の翡翠色が構造色であることを教えていただき、モルフォチョウを思い浮かべました。自然がつくり出す色には不思議な魅力を感じます。

鈴山 尚子

私は、カワセミを間近に直接見たのは(多分?)はじめてです。その美しさに改めて感動しました。

佐藤友保様を始め水元かわせみ倶楽部の皆様には大変お世話になりました。

長年の観察の様子を貴重なデータを元にお話ししてくださり、自然観察の楽しさと環境保護の大切さを、これもまた改めて実感しました。

貴重な研修の機会を提供してくださり、ありがとうございました。

丸山 雅弘



生き物館で、自作の写真集を前にして。 伊澤研修部長



R6. 11月の研修会より 会員の声

真菌が何とかしてくれる!!

6年前に榎村浩一先生の真菌研修会が行なわれた。大変好評な研修会だった。「酵母も真菌だから、次回は是非、午後から研修会を開催し、夕方から日本酒を酌み交わしながら榎村先生との懇親を深めたいですね」という宿題が課された。研修会参加のOB会員が榎村先生の温かいお人柄に触れ、是非、懇親を深めたいと思ったからだと拝察している。

今回の研修会は、私たちの熱い思いを受け止め、公務多忙の中、日程調整をしていただいた榎村先生の御厚意に甘えての実現となった。榎村先生とは、私が八王子市の教員時代(管理職も含めて)、小学6年生の科学教育センター夏期講座の一環で、タラの白子を使用してのDNA取りだし実験でお世話になった関係から始まった。20年以上毎年DNA取り出し講座を行ない、その後必ず帝京大学付近で懇親会が開かれた。その度重なる懇親会で、私は榎村先生と会話を弾ませ親しくさせていただいた。現在では帝京大学医真菌センター研究員として私のチョウ研究でもご支援をいただいている。



榎村先生は大学の地域貢献の先駆けとしていち早く次世代を育てる事業立ち上げた。子どもを育てる重要性に気付かれていたのである。育てる教材として、DNAを使用し、帝京大学八王子キャンパスの医真菌センターで着手され今日まで脈々と続いている。今回の研修会も地域貢献の一環、子ども版でなく大人版である。人間的な触れ合いを大事に思う榎村先生だからこそできた研修会と懇親会である。

私は今回の榎村先生の研修会で心に残ったことは、地球の歴史の中で真菌の果たす役割が非常に大きいという話である。30憶年以上前、地球は真菌で覆われていた。これから先、未来においても、真菌の果たす役割は大きいと感じた。一例であるが、プラスチックごみのことである。長い年月をかけて真菌がプラスチックを分解できる話である。人体の中にも真菌は入っている。真菌は大きなジャンルでは動物に入り、真菌近くには鞭毛虫(人の精子に似ている)や動物の系統樹がつながっている。私は閃いた。「人間の精子以外の身体部分は何なのだ!?無くていいじゃないか」地球で人類が絶滅しても真菌が分解して、また真菌の覆う地球になるかも……壮大なドラマだ。人間の自然破壊でしっぺ返しを受けている様々な地球現象の一つ一つについて、真菌が何とかしてくれると考えれば、気持ちが楽になりますね。

福田 晴男



最新の科学にふれて…

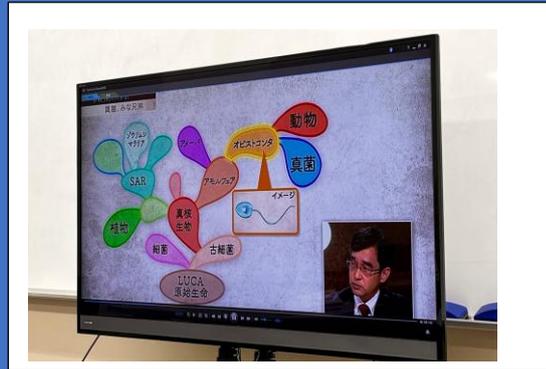
榎村先生の濃くて速いお話に一生懸命ついていきました。真菌を知ることで、生物世界の見方が変わりました。ヒト(動物)と真菌はオピストコンタ、近い仲間なのですね。また、レーザーをぶつけて飛び上がる高さを測定する実験装置、宇宙に近付けるために無重力にする実験装置、真菌の顕微鏡映像など、全て興味深く見学しました。そして、真菌のプラスチック分解能に希望を感じました。最新の科学に触れる機会をいただき、感謝申し上げます。

鈴山 尚子

真菌というもの

医真菌研究センターでの研修ということで、参加以前は何のことを研究しているところなのか、そして、私はどのようなことを研修するのだろうかなどと、ただ漠然とした気持ちのままに当日を迎えました。しかし、真菌というものが生物の起源や進化の過程において大変重要な位置付けを担っているものであることや、私たち人類との長く深い関係について実は切っても切れない関係にあるということを知りやすい内容で学ぶことができました。

福田 昌弘



講師 横村先生から

福田先生

先日は遠いところをお疲れ様でございました。

皆様ハツラツとされていて、とてもOBとは思えない熱量を感じました。

真菌にも大変興味をお持ち頂けて恐縮でございます。

遅くなりましたが、情報交換会のお写真を添付致します。

また、先生にお会いできる日を心よりお待ちしております。

誠にありがとうございました。



真菌って何？

真菌って何？ 研修会に参加する時点での私の知識は、ほぼ皆無状態でした。

帝京大学板橋キャンパス・医真菌研修センターにおいて榎村浩一教授のご講演をいただき、私たちの身近に存在する生物だということがはっきり理解できました。“みずむしは真菌”に親しみ感を覚え、真菌とはカビ+キノコ+酵母の総称であること、今注目されているプラスチックを分解する真菌がいること、地球の歴史上最古にして最大の生物は真菌であり、地球は真菌の惑星であること等のお話にも驚かされました。

また、いただいた研究冊子から、榎村先生が八王子市内の小学生を対象とした「子ども科学教室」にて直接子供たちにご指導いただいていることも知りました。私たちがご指導いただいたことは、そのまま現職の先生方にもぜひ聞かせたい内容でもありました。この研修会を企画し、開催にあたってご尽力くださった研修担当副会長・福田晴男先生に心から感謝です。



最後の懇親会場にて、ほろ酔い加減でお聞きした「天然のキノコは食べるべきではない。食して安全と言われるキノコでも、いつ毒が発生してもおかしくはない。本当においしく食せるのは栽培キノコである」という教えにも納得させられました。

中村 守

真菌は人類の比ではない（研究者の日々のご努力に感謝）

「真菌は、動物と兄弟である。」と言われた榎村教授の話に、まずびっくりした。榎村教授の説明を伺うと、樹形発生図により、古細菌→真核生物→…→オピストコンタと辿り、これから真菌と動物に分かれているのである。「なるほど。だから兄弟なんだ。」と驚きから納得が変わった。

私の頭では、真菌のうちキノコ類は、食用のシイタケ・マツタケ～毒キノコのカエンダケなど10数種、酵母やカビ類を含めても30種までは届かない。ところが、地球上には、真菌が150～800万種在ろうと説明があり、そのうち現在分かっているだけでも10万種在るといふのだ。地球上で最古・最大の生物は、真菌であり人類の比ではない。

しかも、レベル2のラボラトリーの見学では、「真菌を約5000種弱保存している。」と聞いた。この数だけでも、日々新種を発見しているであろうと容易に想像出来る。

一つのことを究めるということは、時間と手間を掛け、壁を乗り越えたうえでの発見と思考、派生へと連続していく。この努力の上に、更にこれを人類のために如何に生かせるかも同時に研究されている榎村教授をはじめ研究室の皆様のお姿に、深い感銘を受けた次第である。

大門 康雄

会員の皆様 声をお寄せいただきありがとうございました。

9月の研修より 会員の声



ヒマラヤスギ球果



精子発見の
ソテツ

○小石川植物園

年間パスポートで日常的に訪れている場所ですが、園内の長い歴史を物語る由緒ある植物や遺構をじっくりたどることは初めてでした。

改めて、研究に取り組んできた方々の地道な努力に思いをはせました。

園内にはヒガンバナが美しく咲いており、晴れていたならアゲハが舞飛ぶ姿を見られたらと、雨天を残念に思っていました。

それだけに、フヨウの花に止まっているイチモンジセセリやアシタバを食べているキアゲハの幼虫を見つけたときは、命のきらめきを感じて嬉しく思いました。

鈴山 尚子



アキノキリン
ソウ温室



オオシマコ
パンノキ温室



カラスウリ



シダ園



ショクダイオウ
コンニャク温室



ヒマラヤスギ
球果



メンデルの
ブドウ



キアゲハと
アシタバ



旧養生所の
井戸



ニュートンの
リンゴ



ヒガンバナ



フヨウイチ
モンジセセリ



甘藷試作跡の
碑



精子発見の
イチョウ

R6. 5月の研修より 会員の声

ご縁でできた研修・・・大満足!!

21年前、校長に昇任し、八王子市立由井第三小学校に着任したときのPTA会長が中西一弘さんでした。130周年行事、地域との共同教育活動などの要に仲西さんがいました。そのご縁で今回の研修会ができました。中西さんの先端に行く農業経営からOB会参加者は多くのことを学び、大好評でした。参加者は新鮮なアンデスレッド（じゃがいも）や大根の収穫体験をさせていただき大満足でした。

福田 晴男



楽しい研修に、感謝!!

大変楽しい研修でした。特にAIを駆使していること、天候を記録する設備を設置し予測していること、試験栽培をしていること、土づくりに力をいれていることなど素晴らしいと感動しました。その全ては、理科の学習がもたらされることを感じ、ますます楽しかったです。さらに、ベースになっているのは中西さんの人間力、これからは様々な場面で協働する力、コラボする力が必要だと感じました。また、二世帯同居している私にとって「老いては子に従え」が妙に、心に刺さりました。最後はおいしいお昼ご飯で、お腹も心も大満足でした。このような研修を企画してくださりありがとうございました。

土田 恵美子



勉強になった！実り多い研修会

イトーヨーカドー多摩センター店で中西ファームの葉付きニンジン、ダイコン等の野菜を買うので、今回の研修を楽しみにしていました。AIを活用した農業の話や聞き、勉強になりました。アンデスレッドジャガイモ、ダイコンの収穫体験をさせていただき、楽しい実りの多い研修会でした。ありがとうございます。

江平 秀子



実感！痛感！学びの多い研修会

5月22日（水）晴天の中、第1回の会員研修会が八王子にある中西ファームで実施されました。総会が終わったばかりで、少々お疲れ気味の私にとっては心身ともに大変有意義なりフレッシュ時間となりました。「金は出すが、口は出さない」という代表取締役である中西一弘・講師の経営や後継者育成に対する確かな信念が伝わってきました。伝統的な農業手法を大切にしつつも、新たなチャレンジを積極的に続けている、そんな前向きな精神力がこれからの近郷型農業を牽引するには不可欠だと実感しました。今急騰している一般的な葉物野菜等から果樹（現在の重点はシャインマスカットとのこと）やキノコ類等へ手広く新展開するポジティブ思考や的確な判断力が、これからの開拓者として必須だと中西講師のお話を伺って痛感しました。実際に畑に行き、ジャガイモ・カブ・ダイコン等のなじみの少ない種を収穫させていただき、お土産をゲット。後は奥さんの力ではあるが、新鮮野菜の素晴らしさをおいしく食することができました。私が視聴しているいくつかのNHKドラマの撮影場所になっていることもお聞きし、より親密感を覚えました。よく研修場所を見回してみると、ドラマの1場面としっかり重なってきました。びっくりしました。

中村 守



近郊型農業生産者の眼から学んだこと

新ジャガを収穫した時、植えてから3ヶ月も経っているというのに、土壌である黒土がふかふかしていることに驚きました。生産者に伺うと「牛糞に竹チップを混ぜて土壌改善を行っている。その結果、病気の発生がなくなり丈夫に育った。」とサラリと回答して戴きました。また、ブドウ棚でも、1年目、2年目・・・と5年を掛けて計画的に枝を育て伸ばしていました。生産者の眼は、①植物の基盤である土壌の独自改善、②先を見据えた計画を見ていました。この視点は、実に参考となる生き方であると感じました。

大門 康雄

